

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北福祉大学
設置者名	学校法人梅檀学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
総合福祉学部	社会福祉学科	夜間・ 通信	34	24	55	113	13	
	福祉心理学科	夜間・ 通信		2	68	104	13	
	福祉行政学科	夜間・ 通信		12	26	72	13	
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科	夜間・ 通信		8	32	74	13	
	情報福祉マネジメント学科	夜間・ 通信		2	34	70	13	
教育学部	教育学部初等教育専攻	夜間・ 通信		12	111	157	13	
	教育学部中等教育専攻	夜間・ 通信		0	64	98	13	
健康科学部	保健看護学科	夜間・ 通信		0	84	118	13	
	リハビリテーション学科作業療法学専攻	夜間・ 通信		0	70	104	13	
	リハビリテーション学科理学療法学専攻	夜間・ 通信		0	53	87	13	
	医療経営管理学科	夜間・ 通信		0	72	106	13	
総合福祉学部 (通信教育部)	社会福祉学科	夜間・ 通信		15	0	15	13	
	福祉心理学科	夜間・ 通信			2	17	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

■通学課程

本学ホームページにおいて公表

(<https://www.tfu.ac.jp/education/s9n3gg0000028i5b-att/s9n3gg0000028ij0.pdf>)

■通信制課程

本学ホームページ>学部・大学院>通信教育部>レポート課題集(シラバス)の「実務経験のある教員等による授業科目一覧」において公表

(<https://www.tfu.ac.jp/tushin/report/pdf/subject2023.pdf>)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北福祉大学
設置者名	学校法人梅檀学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにおいて公表 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/officer.html>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和3年12月6日～ 令和5年12月5日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員		組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北福祉大学
設置者名	学校法人梅檀学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>■通学課程 すべての授業科目について、授業の目的、到達目標(学習成果)、授業の概要、授業の進め方と方法、成績評価の方法と基準、年間の授業計画、その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、学生および一般に公表している。作成過程は下記のとおりである。 毎年度、教務部委員会シラバス小委員会において検討された結果を受けて「シラバス作成要領」を作成し、学内Webシステムであるユニバーサルパスポートで次年度担当科目のある全教員に配布。教員は、Webシステム上で各自の担当科目の要領にしたがってシラバスを作成する。作成後、「シラバス小委員会」委員が中心となって各学科で「シラバスの第三者チェック」を行い、その代表者が「シラバス確認終了届」に押印をする。その終了届を添え、「シラバス小委員会」の代表者が、教務部長宛に「シラバスの適正性に関する確認報告書」を提出する。 作成・公表時期は下記のとおりである。 作成：毎年度末2月から3月下旬 公表時期：前年度の3月下旬から当該年度の3月下旬まで。</p> <p>■通信制課程 すべての授業科目について、授業の方法及び内容、授業の計画、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)として『レポート課題集』を作成し、学生および一般に公表している。作成過程は下記のとおりである。 毎年度、教務部委員会シラバス小委員会において検討された結果を受けて「シラバス作成要領」を作成し、次年度担当科目のある全教員に配付。教員は、各自の担当科目の要領にしたがってシラバスを作成する。作成後、「シラバス小委員会委員」が中心となって各学科で「シラバスの第三者チェック」を行い、その代表者が「シラバス確認終了届」に押印をする。その終了届を添え、「シラバス小委員会」の代表者が、教務部長宛に「シラバスの適正性に関する確認報告書」を提出する。 作成・公表時期は下記のとおりである。 作成時期：毎年度末12月から2月下旬 公表時期：前年度の3月上旬に『レポート課題集』として刊行し、前年度の3月下旬までにホームページ上で公表。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>■通学課程 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/education/curriculum.html)</p> <p>■通信制課程 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/report.html)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

■通学課程

毎年、教員はシラバスを作成するにあたって、「シラバス作成要領」を参照しながら、「授業時間外の学習（予習・復習等）」「評価の方法・基準」を具体的かつ客観的に記載している。また、卒業論文の評価については、各学科が「卒業論文・卒業研究の評価基準、手続き」を定め、ホームページにおいて公表している。（「トップ>大学について>大学の理念>各種方針>学修成果の評価の方針>学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）」>卒業論文・卒業研究の評価基準と手続き」

(https://www.tfu.ac.jp/aboutus/assessment_policy.html)

このようにシラバスやホームページなどの手段によって学生にあらかじめ示した客観的な方法・基準に基づき評価し、単位を認定している。

■通信制課程

毎年、教員は通信教育部のシラバスにあたる『レポート課題集』を作成するにあたって、「シラバス作成要領」を参照しながら、「授業時間外の学習（予習・復習等）」「評価の方法・基準（評価割合）」を具体的かつ客観的に記載している。また、卒業研究の評価については、「評価基準、手続き」を定め、『レポート課題集』及びホームページにおいて公表している。（「トップ>学部・大学院>通信教育部>レポート課題集(シラバス)>卒業研究」

(<https://www.tfu.ac.jp/tushin/report/2023/ZZ5991Y.pdf>)

このように『レポート課題集』やホームページなどの手段によって学生にあらかじめ示した客観的な方法・基準に基づき評価し、単位を認定している。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■通学課程

1) 客観的な指標として「累積G P A」を位置づけ、毎年度、本学ホームページにて公表している。

2) 算出方法については、次の計算式による。

$$GPA = (\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0) / (\text{履修登録した科目の単位数合計 (「不可」「無資格」「放棄」を含む)})$$

3) 成績評価の適切な実施に関わる取り組みについては、各学生が履修した科目の成績に基づき、上の算出方法によってGPAを算出している。

4) 各学年の年度末においてGPAが1.2未満だった場合には、アカデミック（サブ）アドバイザー（各学年のリエゾンゼミ担当教員等）による面談や学修の仕方のアドバイスを受ける制度があることや、卒業時においてはGPAが1.5未満である場合は「卒業認定試験」を受ける必要があることが、各学部の便覧にて周知されている。

■通信制課程

1) 客観的な指標として「通算G P A」を位置づけ、算出方法・利用方法は本学ホームページにて公表している。

2) 算出方法については、次の計算式による。

$$GPA = (\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0) / (\text{履修登録した科目の単位数合計 (「不可」を含む)})$$

3) 成績評価の適切な実施に関わる取り組みについては、各学生が履修した科目の成績に基づき、上の算出方法によってGPAを算出している。

4) 卒業時においてはGPAが1.5未満である場合は「口答試問」を受ける必要があることが、『学習の手引き』にて周知されている。

<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>■通学課程 GPA の算出方法、GPA を活用した学修の振り返りや学修支援及び卒業要件 ・冊子体として在學生に配布される各学部の便覧の他、 ・本学ホームページ（トップ>メニュー>在學生の方>學生便覧 STUDENT HANDBOOK）にて公表している。 https://www.tfu.ac.jp/students/arprn89000001r6d-att/s9n3gg00000247j8.pdf</p> <p>■通信制課程 GPA の算出方法、GPA を活用した学修の振り返りや学修支援及び卒業要件 冊子体として在學生に配付される『学習の手引き』『レポート課題集』の他、 本学ホームページ（トップ>学部・大学院>通信教育部>学習の手引き）、（トップ>学部・大学院>通信教育部>レポート課題集>レポート課題集 A）にて公表している。 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/tebiki.html) (https://www.tfu.ac.jp/tushin/report/pdf/report2023A1.pdf)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）</p> <p>■通学課程 卒業認定・学位の授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を全学、各学部学科で定め、HP（トップ > 大学について > 大学の理念 > 教育方針（3 ポリシー等） > 東北福祉大学（学部・学科について） > 東北福祉大学の教育方針等において公表している。 また、本学学則（第 46 条）において卒業の条件が明記されており、HP および学生便覧等において公表されるとともに、年度初めの新入生および在籍生のガイダンスにおいても学生に周知している。本学の場合、卒業要件単位数 124 単位（学科によっては 125 単位）と各学科にて定められた科目群ごとに必要単位の修得、卒業時通算 GPA1.50 以上が求められている。通算 GPA が 1.50 未満の学生に対しては「卒業認定試験」を課し、合格した者に卒業を認定している。</p> <p>■通信制課程 卒業認定・学位の授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、ホームページ（URL：https://www.tfu.ac.jp/tushin/tebiki.html）等において公表している。 また、通信教育部学則（第 31 条）において卒業要件が明記されており、ホームページおよび『学習の手引き』等において公表されている。なお、通信教育部では、修業年限 4 年以上、卒業要件単位 124 単位の修得、各学科にて定められた科目群ごとに必要単位の修得、「卒業試験」または「卒業研究」に合格、通算 GPA1.5 以上が求められている。通算 GPA1.5 未満の学生に対して「口頭試問」を課し、合格した者に卒業を認定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>本学ホームページにおいて公表している。</p> <p>■通学課程 東北福祉大学の教育方針 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/tfu.html) 東北福祉大学学則 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/regulations.html)</p> <p>■通信制課程 GPA の算出方法、GPA を活用した学修の振り返りや学修支援及び卒業要件 冊子体として在學生に配付される『学習の手引き』『レポート課題集』の他、 本学ホームページ（トップ>学部・大学院>通信教育部>学習の手引き）、（トップ>学部・大学院>通信教育部>レポート課題集>レポート課題集 A）にて公表している。 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/tebiki.html) (https://www.tfu.ac.jp/tushin/report/pdf/report2023A1.pdf)</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北福祉大学
設置者名	学校法人梅檀学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html)
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html)
財産目録	本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html)
事業報告書	本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html)
監事による監査報告(書)	本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/finance.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 令和5(2023)年度事業計画(抜粋) 対象年度: : 令和5年度)
公表方法: 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/plan2023.html)
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/evaluation.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/arprn890000001glc-att/arprn89000000419v.pdf)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合福祉学部 (社会福祉学科、福祉心理学科、福祉行政学科)
教育研究上の目的 (公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している) 学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcw.html) 社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dsw.html) 福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dwp.html) 福祉行政学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html)
(概要) 総合福祉学部は、多角的視野から教育・研究に取り組み、知識、技術、社会的実践力を錬磨し、福祉社会の実現に資する人材の育成を目的とする。 ※各学科の教育研究上の目的は、上記 URL を参照のこと。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している) 学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcw.html) 社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dsw.html) 福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dwp.html) 福祉行政学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html)
(概要) 総合福祉学部は、社会、地域、人びとに貢献しようとする強い信念に基づき、生活上の問題を発見し解決する力、福祉のところに則り行動する倫理感観、円滑なコミュニケーションのもとリーダーシップを発揮し協働する力を身に付け、卒業に必要な所定の単位数や GPA などの要件を満たした者に学位を授与します。 ※各学科の卒業の認定に関する方針は、上記 URL を参照のこと。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している) 学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcw.html) 社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dsw.html) 福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dwp.html) 福祉行政学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html)
(概要) 総合福祉学部は、人間の「ウェル・ビーイング」のため、人間・環境、社会の相互作用においてもたらされる不断なダイナミズムを研究します。具体的には、幼年期から老年期にわたるライフステージにおいて生じる生活課題や地域の多様な課題を、福祉学、心理学、行政学などの視点から主体的に学び、思考能力と実践能力が身につく教育課程を編成しています。 ※各学科の教育課程の編成及び実施に関する方針は、上記 URL を参照のこと。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している) 学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcw.html) 社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dsw.html) 福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dwp.html) 福祉行政学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dswa.html)

(概要) 総合福祉学部は、各学科の教育内容を学修するのに十分な基礎学力や論理的思考力を備え、「広く人々の幸せや福祉の向上に貢献したい」「学んだことを実践に積極的に活かしたい」「多様な文化を理解し共存していきたい」などの意欲を有する人材の入学を期待します。

※各学科の入学者の受入れに関する方針は、上記 URL を参照のこと。

学部等名 総合マネジメント学部(産業福祉マネジメント学科、情報福祉マネジメント学科)
教育研究上の目的 (公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している)

学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcm.html>)

産業福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmiw.html>)

情報福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmwi.html>)

(概要) 総合マネジメント学部は、「IT 関連企業」「金融」「行政」「福祉」「観光」など幅広い職業人の養成を目的とし、人や社会のさまざまな問題・課題に取り組むためのマネジメント知識と能力を備え、社会や地域への貢献を実現するためのリーダーシップを発揮しうる人材を育成します。

※各学科の教育研究上の目的は、上記 URL を参照のこと。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している)

学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcm.html>)

産業福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmiw.html>)

情報福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmwi.html>)

(概要) 総合マネジメント学部は、社会的ニーズや文化的な要請に応えうる基本的な知識と技能を体系的に有し、情報収集、分析、問題発見、解決のプロセスを客観的に評価し、他者と有効なコミュニケーションを図ることができる学生を輩出します。例えば、社会貢献(奉仕)体験活動やフィールドワークなどの経験を通して、他者と協調・協働して行動できる。また、自己の良心と社会の規範やルールに従い行動に移すことが出来る能力を兼ね備えた学生に学位を授与します。

※各学科の卒業の認定に関する方針は、上記 URL を参照のこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している)

学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcm.html>)

産業福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmiw.html>)

情報福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmwi.html>)

(概要) 総合マネジメント学部は、産業福祉マネジメント学科では、「地域・社会貢献教育(例: プロジェクト実践活動、起業フィールドワークなど)」の実社会とのつながりが深い実学・実践を重視した学びを取り入れています。情報福祉マネジメント学科では、高度な ICT 系科目(プログラミング、Web サイト構築、人工知能論、3DCG 制作、デジタルデザイン等)のみならず、プレゼンテーション技法、調査・分析法、測定実験等、社会に出てから役に立つ科目が体系的に用意されています。

2つの学科に共通するのは、社会・文化的活動、多様性、科学的な考え方、総合的・多角的な見方を養い、地域の抱える課題を「人間を中心に据えた」福祉的な視点で見つめ、イノベティブ(革新的な)思考とビジネス的手法で解決に挑む、幅広い教養を身につけることができるカリキュラムとなっています。

※各学科の教育課程の編成及び実施に関する方針は、上記 URL を参照のこと。

入学者の受入れに関する方針(公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している)
学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fcm.html>)

産業福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmiw.html>)

情報福祉マネジメント学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dmwi.html>)

(概要) 総合マネジメント学部は、まちづくりや地域経済について関心があり、実践的な活動を通して主体性を持って地域の人々とともに学ぶ意欲を持ち、地域に貢献する気持ちを有する人。

情報科学、社会福祉、マネジメント等を学修するために必要な基礎的な知識と技能を備え、実践的な活動を通して得られた課題発見力をフィールドワーク等で役立てることができるスキルを有する学生の入学を期待します。

学部等名 教育学部(教育学科)

教育研究上の目的(公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している)

教育学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>)

教育学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/de.html>)

(概要) 教育学部は、豊かな教養と人間性を基礎に据え、保育・教育への熱意、高度な専門性、研修意欲等を備え、乳幼児・児童・生徒の保育・教育に柔軟に対応できる人材を育成する。

※学科の教育研究上の目的は、上記 URL を参照のこと。

卒業の認定に関する方針(公表方法: 学部学科とも下記の URL にて公表している)

教育学部 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html>)

教育学科 (<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/de.html>)

(概要) 教育学部は、「考える楽しさ」「学ぶ喜び」を育てる専門職として、乳幼児・児童・生徒一人ひとりの発達の特徴を理解し適切に対応し、学んだ諸能力を現場で効果的・柔軟に発揮して実践を行い、乳幼児・児童・生徒や保護者を受容的に支援しながら、自らの「学び」を土台に、自ら考えたことや実践したことについて省察する能力を有する学生に学位を授与します。

※学科の卒業の認定に関する方針は、上記 URL を参照のこと。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>教育学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html)</p> <p>教育学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/de.html)</p>
<p>（概要）教育学部は、問題解決型学習（PBL）や協同学習を積極的に活用し学士力向上をめざしていく科目を配置するのはもちろんのこと、保育士や教員としての情熱や責任感を育み、乳幼児・児童・生徒を理解し一人ひとりの気持ちによりそった対応ができるようになるうえで必要な、保育系・教育系・特別支援教育系の講義・演習・実習などを中心に配置しています。さらに、東北福祉大学のこれまでの実績をいかして、福祉系科目や心理学系科目等も幅広く学び、乳幼児・児童・生徒をさまざまな面から支援する方法を総合的に理解できるカリキュラムになっています。</p> <p>※学科の教育課程の編成及び実施に関する方針は、上記 URL を参照のこと。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>教育学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fe.html)</p> <p>教育学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/de.html)</p>
<p>（概要）教育学部は、保育・教育にかかわる者として乳幼児・児童・生徒をとりまく日常生活や周辺環境で生じる諸課題を広い視野でとらえ、深く理解し対応できる力が必要になります。そのため入学後の学修や実践に必要な知識を有し、それらを自律的な学修によって伸ばしていこうとする向上心と意欲、保育・教育に貢献していこうとする使命感を有する学生の入学を期待します。</p> <p>※学科の入学者の受入れに関する方針は、上記 URL を参照のこと。</p>

<p>学部等名 健康科学部（保健看護学科、リハビリテーション学科、医療経営管理学科）</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fhs.html)</p> <p>保健看護学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dn.html)</p> <p>リハビリテーション学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dr.html)</p> <p>医療経営管理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dheq.html)</p>
<p>（概要）健康科学部は、ヒューマニティやノーマライゼーションを基本に、人間を全人的に捉え、「生命の尊重」「人としての尊厳」を基盤にもつ人材を育成することを目的とする。</p> <p>※各学科の教育研究上の目的は、上記 URL を参照のこと。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fhs.html)</p> <p>保健看護学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dn.html)</p> <p>リハビリテーション学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dr.html)</p> <p>医療経営管理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dheq.html)</p>

<p>(概要) 健康科学部は、社会人としての一般教養と汎用的能力、人間性、倫理性を身に付け、保健・医療・福祉の専門職にふさわしい知識と実践力を備え、卒業に必要な所定の単位を修得した者に学位を授与します。</p> <p>※各学科の卒業の認定に関する方針は、上記 URL を参照のこと。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fhs.html)</p> <p>保健看護学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dn.html)</p> <p>リハビリテーション学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dr.html)</p> <p>医療経営管理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dheq.html)</p>
<p>(概要) 健康科学部は、充実した総合基礎科目（基盤教育科目）とリエゾンゼミによる人間性、社会性、倫理性の涵養を図り、医学・医療にかかわる基礎知識から専門的知識への学びの展開を行い、技術の修得と実践力向上のための豊富な現場実習への融合を行えるようにします。さらに、課題研究などを設けて、応用的思考や創造力の養成を行います。</p> <p>※各学科の教育課程の編成及び実施に関する方針は、上記 URL を参照のこと。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：学部学科とも下記の URL にて公表している）</p> <p>学部 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/fhs.html)</p> <p>保健看護学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dn.html)</p> <p>リハビリテーション学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dr.html)</p> <p>医療経営管理学科 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/dheq.html)</p>
<p>(概要) 健康科学部は、医学・医療について関心を持ち、自らの人間性、社会性、創造性を高め、本学の建学の精神「行学一如」に則り、保健・医療・福祉の領域における専門的知識と実践能力を身に付けることで社会貢献をめざす人材を求めます。</p> <p>※各学科の入学者の受入れに関する方針は、上記 URL を参照のこと。</p>

<p>学部等名 総合福祉学部（通信教育部）社会福祉学科、福祉心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学科ごとに下記の URL にて公表している）</p> <p>社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shafuku.pdf)</p> <p>福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shinri.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>多角的視野から教育・研究に取り組み、知識、技術、社会的実践力を錬磨し、福祉社会の実現に資する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：学科ごとに下記の URL にて公表している）</p> <p>社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shafuku.pdf)</p> <p>福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shinri.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>通信教育部の教育目標を理解し、124 単位の単位取得と要件、求められる GPA を満たした上で、社会福祉学または心理学の知識と技能・技術を修得し、各学科で定める資質能力について実践を通して理解を深めた人物に学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学科ごとに下記の URL にて公表している）</p> <p>社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shafuku.pdf)</p> <p>福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shinri.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>通信教育部では、「印刷教材による授業」「面接授業」「放送授業」「メディアによる授業」「実習」「卒業研究」「卒業試験」等の多様な学習方法による学習環境を整備している。</p> <p>これらの学習から「社会福祉実践力」または「心理実践力」を身に着けます。</p> <p>各科目の成績評価は、到達目標の達成度（一部にルーブリック評価を導入）、学修過程（レポート、スクーリングなどへの参加状況）を踏まえて行われる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：学科ごとに下記の URL にて公表している）</p> <p>社会福祉学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shafuku.pdf)</p> <p>福祉心理学科 (https://www.tfu.ac.jp/tushin/education/policy_shinri.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>通信教育部では、「主体性を持って人々とともに学ぶ意欲を持った人」「社会福祉学または心理学を学び、人々の幸せや福祉に貢献したい人」を求めている。さらに、幅広い年齢層を対象に学修機会を提供する生涯学習機関として、通信教育の学修方法を理解し、学びを実践にいかしたいという意欲をもっている方の入学を期待している。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：本学ホームページにおいて公表</p> <p>(https://www.tfu.ac.jp/aboutus/disclosure.html)</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
総合福祉学部	—	26人	32人	13人	5人	1人	77人
総合マネジメント学部	—	11人	8人	2人	1人	0人	22人
健康科学部	—	22人	18人	10人	18人	3人	71人
教育学部	—	25人	21人	2人	1人	1人	50人
附属研究所	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
その他	—	0人	0人	0人	0人	1人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		■通学課程 271人 ■通信制課程 147人					418人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/education/professors.html)					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/fd/outline/greet.html)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合福祉学部	620人	585人	94.4%	2,480人	2,498人	100.7%	0人	5人
総合マネジメント学部	200人	217人	108.5%	800人	859人	107.4%	0人	2人
教育学部	250人	262人	104.8%	1,000人	1,045人	104.5%	0人	1人
健康科学部	230人	254人	110.4%	920人	1,012人	110.0%	0人	1人
合計 (通信教育部を除く)	1,300人	1,318人	101.4%	5,200人	5,414人	104.1%	0人	9人
総合福祉学部(通信教育部)	800人	339人	42.4%	3200人	2112人	66.0%	0人	199人
(備考)								
・編入学者内訳=社会福祉学科3年次編入4名、福祉心理学科3年次編入1名、産業福祉マネジメント学科3年次編入2名、教育学科中等教育専攻3年次編入1名、医療経営管理学科3年次編入1名。 ・編入学定員は欠員の範囲内。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合福祉学部	646人 (100%)	22人 (3.4%)	553人 (85.6%)	71人 (11%)
総合マネジメント学部	218人 (100%)	1人 (0.5%)	189人 (86.7%)	28人 (12.8%)
教育学部	265人 (100%)	5人 (1.9%)	229人 (86.4%)	31人 (11.7%)
健康科学部	244人 (100%)	2人 (0.8%)	234人 (95.9%)	8人 (3.3%)
合計	1373人 (100%)	30人 (2.2%)	1205人 (87.8%)	138人 (10.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】東北福祉大学大学院、東北大学大学院、立教大学大学院 他				
【就職先】法務省仙台矯正管区、宮城県庁、福島県庁、宮城県警察本部、福島県教員、宮城県教員、山形県教員、仙台市教員、日本年金機構、(独)国立病院機構北海道東北グループ、(福)宮城県社会福祉協議会、東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台厚生病院、(株)トインクス、(株)東日本旅客鉄道、(株)ベネッセスタイルケア、(株)アインホールディングス 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
社会福祉学科	432人 (100%)	388人 (89.8%)	21人 (4.9%)	22人 (5.1%)	1人 (0.2%)
福祉心理学科	136人 (100%)	124人 (91.2%)	6人 (4.4%)	6人 (4.4%)	0人 (0.0%)
福祉行政学科	116人 (100%)	112人 (96.6%)	1人 (0.9%)	2人 (1.7%)	1人 (0.9%)
総合福祉学部計	684人 (100%)	624人 (91.2%)	28人 (4.1%)	30人 (4.4%)	2人 (0.3%)
産業福祉マネジメント学科	110人 (100%)	102人 (92.7%)	5人 (4.5%)	3人 (2.7%)	0人 (0.0%)
情報福祉マネジメント学科	116人 (100%)	104人 (89.7%)	6人 (5.2%)	5人 (4.3%)	1人 (0.9%)
総合マネジメント学部計	226人 (100%)	206人 (91.2%)	11人 (4.9%)	8人 (3.5%)	1人 (0.4%)
教育学科	269人 (100%)	254人 (94.4%)	6人 (2.2%)	9人 (3.3%)	0人 (0.0%)
教育学部計	269人 (100%)	254人 (94.4%)	6人 (2.2%)	9人 (3.3%)	0人 (0.0%)
保健看護学科	92人 (100%)	85人 (92.4%)	4人 (4.3%)	3人 (3.3%)	0人 (0.0%)
リハビリテーション学科	88人 (100%)	72人 (81.8%)	13人 (14.8%)	3人 (3.4%)	0人 (0.0%)
医療経営管理学科	80人 (100%)	76人 (95.0%)	3人 (3.8%)	1人 (1.3%)	0人 (0.0%)
健康科学部計	260人 (100%)	233人 (89.6%)	20人 (7.7%)	7人 (2.7%)	0人 (0.0%)
合計	1,439人 (100%)	1,317人 (91.5%)	65人 (4.5%)	54人 (3.8%)	3人 (0.2%)
(備考) 留年の主な理由については、学業不振である。中途退学の主な理由については、修学意欲の低下、進路変更（進学、就職）、経済的困窮等である。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) すべての授業科目について、授業の方法及び内容、年間の授業計画、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が記載した授業計画書(シラバス)（＝通信教育部は『レポート課題集』）を作成し、学生および一般に公表している。作成過程では、作成要項を示すとともに「シラバス小委員会委員」が中心となって、担当教員以外の第三者チェックを行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(学修成果の評価の基準)</p> <p>各科目の担当教員は学生・一般に公表されたシラバス（通信教育部は『レポート課題集』）に具体的かつ客観的に記載された「授業時間外の学習（予習・復習等）」「評価の方法・基準（評価割合）」など、学生にあらかじめ示した客観的な方法・基準に基づき評価し、単位を認定している。</p> <p>各年度・期間の学修成果の評価の客観的な指標として「累積（通算）GPA」を位置づけ、算出方法・利用方法は本学ホームページにて公表している。</p> <p>(卒業認定にあたっての基準)</p> <p>卒業要件単位数 124 単位 (学科によっては 125 単位) と各学科にて定められた科目群ごとに 必要単位の修得、卒業時通算 GPA1.50 以上、（あわせて通信教育部は「卒業試験」または「卒業研究」の合格）が求められている。通算 GPA が 1.50 未満の学生に対しては「卒業認定試験」（通信教育部は「口頭試問」）を課し、合格した者に卒業を認定している。</p> <p>(卒業にあたっての学修成果の把握)</p> <p>卒業要件達成者が、本学が求める学修成果＝「ディプロマポリシー」を達成しているかどうかについては、卒業時アンケートで検証をしている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
総合福祉学部	社会福祉学科	124単位	有・無	46単位
	福祉心理学科	124単位	有・無	46単位
	福祉行政学科	124単位	有・無	46単位
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科	124単位	有・無	46単位
	情報福祉マネジメント学科	124単位	有・無	46単位
教育学部	教育学科	124単位	有・無	46単位
健康科学部	保健看護学科	125単位	有・無	46単位
	リハビリテーション学科	124単位	有・無	46単位
	医療経営管理学科	124単位	有・無	46単位
総合福祉学部 (通信教育部)	社会福祉学科	124単位	有・無	50単位
	福祉心理学科	124単位	有・無	50単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/ir/gpa.html (成績評価分布<GPA>))		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/ir/assessment.html (学修成果の把握))		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：：本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/environment.html)</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
総合福祉 学部	社会福祉 学科	733,000 円	200,000 円	451,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
	福祉心理 学科	733,000 円	200,000 円	486,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 実験設備維持費 (35,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
	福祉行政 学科	733,000 円	200,000 円	451,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
総合 マネジメント 学部	産業福祉 マネジメント 学科	733,000 円	200,000 円	451,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
	情報福祉 マネジメント 学科	733,000 円	200,000 円	476,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 実験設備維持費 (25,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
教育学部	教育学科	733,000 円	200,000 円	451,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
健康 科学部	保健看護 学科	1,000,000 円	200,000 円	860,000 円	施設設備資金 (300,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 実験設備維持費 (250,000 円) 実習費 (100,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
	リハビリ テーション 学科	1,000,000 円	200,000 円	860,000 円	施設設備資金 (300,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 実験設備維持費 (250,000 円) 実習費 (100,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
	医療経営管理 学科	733,000 円	200,000 円	451,000 円	施設設備資金 (241,000 円) 教育環境整備費 (50,000 円) 厚生費 (20,000 円) 休学中の在籍料 (120,000 円 年間) 休学中の厚生費 (20,000 円 年間)
総合福祉 学部 (通信教育部)	社会福祉 学科	100,000 円	30,000 円	96,000 円	施設設備資金 (30,000 円) 卒業に必要な最低限のスクーリング 受講料 (56,000 円)
	福祉心理 学科	100,000 円	30,000 円	96,000 円	休学中の在籍料 (10,000 円 年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

■通学課程

学生支援に関する方針を定め、その中の「修学支援」に関しては、以下のように定め取り組んでいる。

1. 学修を円滑にすすめるための学修相談・指導を、教職員が相互連携して実施する。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
2. 学生自身の学修の履歴、成長の記録等を確認できる仕組みの構築に努め、学生の学修を支援する。
3. 留年者および休・退学者については、その状況把握とデータ管理・分析を行うとともに、早期のケアを含めた対応策を講じながら支援する。
4. 障がいのある学生が豊かな学生生活を過ごすことができるよう、学修や生活を組織的に支援する。
5. 図書館の機能を充実させ、その適切な活用法の指導を通じて自主的な学習活動を支援する。

また、経済的支援として大学独自奨学金と授業料減免を実施している。

■通信制課程

通信教育部ではわかりやすい印刷物を作成し、間違いのないよう学修活動に参加していただくことが一番の支援になると考え取り組んでいます。

印刷物を読むだけでは不安な方へは、電話・メール・FAX・郵送・来校・Web 会議システムなど様々な方法で事務室への質問を受け付けています。入学初年度に学修に取り組めていない学生へ電話相談等を行うことで、最初の一步が踏み出せるようサポートしています。また、動画版学習ガイダンスで学修支援を行っています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

■通学課程

学生支援に関する方針を定め、その中の「進路支援」に関しては、以下のように定め取り組んでいる。

1. 学生の主体的なキャリア選択につながるよう、初年次キャリア教育を重視し職業への興味を喚起するようなプログラムを提供する。
2. 学生の多様なニーズに応えるために、学部・学科等との情報共有を図りながら、適切な就職支援・キャリア教育を実施する。
3. 学生の入学後の就職支援、個別進路相談、講座・ガイダンスの開催、各種セミナーを実施する。
4. 障がいのある学生・外国人留学生の個性、能力に応じた就職支援・キャリア教育を行う。
5. 卒業及び修了後も就職活動を継続する卒業生・修了生に対しての就職支援を実施する。

◎マッチング事業

・求人情報提供・就職セミナー・単独学内説明会・合同企業業界セミナー・公務員業界セミナー

◎各種ガイダンスやキャリア支援講座

・4年生フォローアップ講座・未内定者フォロー・学科別キャリアガイダンス・福祉医療ガイダンス・出前型出張ガイダンス(学科単位、ゼミ単位、クラブ単位、サークル単位)・各種筆記試験対策講座・履歴書、エントリーシート講座・面接力アップ講座・模擬面接会&グループディスカッション実践講座・就活基礎講座・学生個別支援(相談・添削・模擬面接等)

◎障がい学生へのキャリア支援

・障がいのある学生のキャリア支援として、健康管理課・学生相談室をはじめとする学内の

<p>各部署と連携を図り対応。</p> <p>◎卒業生のキャリア支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生で就職活動継続に対する求人情報提供の他、キャリア相談、書類添削、個別面談などを行い就職先決定まで支援。 <p>◎間接的支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、保証人を対象とする「教育懇談会」の開催・学科別担当教員との学内連携・電話による進路聞き取り調査・ゼミ調査 <p>◎単位制就労実習（インターンシップ）</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環として単位制就労実習（インターンシップ）を実施 <p>■通信制課程</p> <p>通信教育部の卒業生の活躍を機関誌『With』やホームページで紹介し、刺激にしてもらっています。また、実際の現場を経験している教員が自身の体験を伝えること、学生自身の職業経験を紹介することで、まわりの学生の刺激になっていることがキャリア教育につながると考え取り組んでいます。</p>

<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要）</p> <p>■通学課程</p> <p>学生支援に関する方針を定め、その中の「生活支援」に関しては、以下のように定め取り組んでいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 各学部学科・研究科が目標とする人材養成の実現に向けて、学修指導及び福利厚生を充実させる。 学生が自らの学修に専念することができる環境を整備する。 学生の人間的成長と自立を促すための支援をする。 学生が対等な個人として尊重される快適で安全な環境を提供する。 学生一人ひとりが卒業後の進路を意識し、自らの質的向上を図るための支援をする。 <p>○身体の健康に係る支援として、健康管理課（保健室）と学内医療施設が体調不良・病気、健康診断及びインフルエンザ無料接種、その他健康指導・相談に対応している。また、ケガについては学生総合補償制度（責任賠償保険）に全学生が自動加入して補償している。</p> <p>○精神的健康としての心の悩みなどについては、学生支援課の何でも相談や学生相談室での生活相談、その他悩みの質によって大学附属医療施設で専門的に対応している。また、リエゾンゼミ担当教員をクラス担任とし、気軽かつ早期に相談ができる体制を確立して対応している。</p> <p>■通信制課程</p> <p>通信教育のため、学生の日々の健康管理は自己管理が基本となります。</p> <p>精神的サポートとしての心の悩みなどについては、悩みの質によって学内の臨床心理相談室などへつなぐ対応を行っています。</p>
--

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：本学ホームページにおいて公表 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/disclosure.html)</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F104310100914
学校名	東北福祉大学
設置者名	学校法人梅檀学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		591人	574人	569人
内 訳	第Ⅰ区分	326人	323人	
	第Ⅱ区分	153人	141人	
	第Ⅲ区分	112人	110人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				572人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	46人		
計	53人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	138人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	139人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。